

藤の朋便り

2011.7月

同窓会「藤の朋」会員の皆様には、ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。
3月の東日本大震災では、自然災害の恐ろしさを映像や情報で知らされました。
4月1日に行われた箏曲部定期演奏会のおり、岩手県一関市「藤の園」養護施設(0歳～18歳までの定員60名)の被災のお話がありました。微力ですが出席幹事で支援の協力をさせていただきました。

昨秋には、母校の格別な計らいと協力をいただき総会・懇親会を開催致しました。
役員・幹事の手作りの会でしたが、恩師・会員140名もの参加者で、ささやかながらも久しぶりの再会に心温まり楽しいひとときを過ごすことができました。有り難うございました。

今までは、総会時のみの活動報告でしたが母校のホームページから「卒業生のみなさまへの連絡」と、いうコーナーでお知らせ出来るようになりました。同窓会の活動や各期集まりの様子などをお知らせして参りたいと思っています。

気負わず、身近なところから、繋げつつ刊行……を目標にいたしておりますので、今後とも皆様のご協力を宜しくお願い致します。

会長 室城 万利子

遠い遠い春の日に、母に送られて向かった旭川で山頂にまだ多くの雪を残した大雪山を見た時、「これからこの町で暮らすのだ」と子供心に思ったものです。

その時十二歳の私は学校や寄宿舎生活の不安より新しい環境に胸をときめかせていましたが、それはすぐにホームシックと言うそこはかこない悲しさになりました。それからはおよそ2千日の残りを数えて卒業を待つ日々。幼い子供から少女への階段の途中、私は何度も階段を踏み外し、その度にそれを大人のせいにして苛立ち、心を尖らせては「反抗」という方法で戦っていたのかも知れません。

しかし、今思えばその尖った心を受け止めてくれた諸先生がいたおかげで、大きく道を踏み外さずに大人へと成長できたのだと思います。現在、青少年の悲惨な事件が起こる度に、私はその子達の心を受け止める大人がいてはくれなかったのかと心が痛みます。

厳しい規則に反発した自分も、大人と世の中を相手に戦っていた自分も、全てが今の私の一部になり、子供を育てる時に役に立ってくれました。今では藤で過ごしたあの頃が何より懐かしく、藤の制服の少女を見るたびに思わず声を掛けたくなる自分がいます。

20回生 吉川千鶴

筆者略歴:第3回感動フィクション大賞(幻冬舎・フジテレビ共催)
「胡蝶の灯り」2009年 幻冬舎社より発刊など

平成22年10月23日（土）に本校で行われた同窓会について

過日10月23日に行われました第41回 総会・懇親会は、新校舎、クサヴェラセミナーハウスを卒業生の方々に見ていただくという思いから、学校の講堂で行われました。

幹事の一人といたしまして、初めての試みでもありますし、少ない予算の中で、出席して下さる方々に来て良かったと思っただけの様、知恵を出し合ったつもりですが、進行・内容など課題も見つかりました。

短い時間ではありましたが、楽しんでいただけましたでしょうか？

遠路関東方面から参加して下さった方もあり、皆さん女子高生に戻り、旧交を温め話しに花が咲いていました～☆女性の良い所ですね。

次回は、退職された先生方への強力な声かけもしようと思っております。

お忙しいところ、たくさんのご参加ありがとうございました



平成23年3月1日(火)に本校で行われた同窓会入会式について

過日3月1日(火)『同窓会入会式』が行われ、56回生95名を新しい会員として迎えました。

ご卒業おめでとうございます。

『同窓会入会式』と『卒業生を送る祈りの集い』に初めて参列させていただきました。

思遙か昔の自分の時のことは思い出せず、卒業式の前の一つの行事…としか記憶にありませんでした。

でもこの度、年月を経て改めて聖歌と聖書を唱和した時、少し背筋が伸び、心ふるえる私でした。

決して華美ではない。けれどキラリと光る藤高の精神を再確認させられた素晴らしい集いでした。

本年卒業された皆さんと、また会えます様に。

24回生 幹事



記念品贈呈

